

若年性認知症のご本人の声に耳を傾け、今やりたいことをサポートする ～パートナーとして、当事者の思いを伝える～

名古屋市認知症介護指導者 安田いづみ

キーワード: 当事者の声、パートナー、
やりたいことを一緒に、支援者自身も学ぶ

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

今まで出来ていたことが困難となり、やりたいことをあきらめてしまう事が多くなったとの若年性認知症当事者の声を聞き、自分たちがサポートすることで、その実現に一步近づくことが出来るかを考える。

【活動内容】

若年性認知症当事者の A さんは、今やりたいことがあった。一般に認知症の方が今やってみたいことを実現しようとする、自分たちだけでは様々な障害や制度の壁があり実現困難なことも多い。そこで、できないことをサポートするのではなく、やりたいことをサポートするために取り組んだ事例を紹介する

活動のきっかけ、背景(指導者としての立場で)

「若年性認知症サロン」に認知症介護指導者として参加をきっかけに、若年性認知症の A さんと 2018 年より交流を持つようになった。認知症がゆえにやりたいことをあきらめてしまう例は少なくない。その実現に向けての取り組みを考えてみた。

活動の経過と成果

【活動の経過】

2018 年 10 月、地域で開催された若年性認知症サロンで若年性アルツハイマー型認知症と診断されている A さんに出会った。そして、A さんの希望である①認知症サポーター養成講座の講師「キャラバンメイト」になりたい。②社会のために何か役に立ちたい。ボランティア活動をしたい。に共感し、A さんの思いを支援するパートナーとして一緒に活動することとなった。

①について、当事者キャラバンメイトに実績のある名古屋市認知症相談支援センターの職員より名古屋市に相談し、A さんとともに講座を受講。受講後はキャラバンメイトとして講師デビュー。以降、定期的に地域でキャラバンメイトとしての活動を行っている。

②について、実現に向け私の所属法人に相談。隔月に開催される認知症カフェのボランティアをしていただく承諾を得る。A さんを受け入れるにあたり、認知症介護指導者である私が講師となり若年性認知症の施設内研修を実施。認知症カフェでは A さんと職員とペアになり、カフェ訪問者の会場案内、飲み物のオーダーなどを行い、明るい A さん本人のストレングスを十分に活かしたボランティア活動となった。当施設のボランティア活動をきっかけに、地域での様々な認知症カフェに参加しボランティアグループにて活動の場を広げ活躍している。

【活動の成果】

地域で認知症サポーター養成講座を開催し、当事者キャラバンメイトからの発信は当事者の生の声を聞くことが出来るということで非常に反響が大きかった。開催後のアンケートや会場からは、認知症の方への見方が変わった。認知症になってもサポートがあれば、やりたいことが実現でき、明るく前向きに生きることができる等の声が聞かれた。実際に当施設での認知症カフェでかかわった職員からも、認知症に対し、今まで自分たちがイメージしていた認知症と全く違い、今後のケアの参考にしたいという声が聞かれた。

今後の展望

昨年よりコロナ禍で活動の場が減ることとなった。また地域での認知症カフェも中止となり A さんにとっては交流や参加の場が減り、人とのコミュニケーションの場に影響を与えている。このような時期であるからこそ、コロナ禍だからできないではなく今この時に沿ったサポート方法を考えていきたい。